

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	教育庁生涯学習課
施策名	(4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	課(室)長名	立木 貴文
事業群名	表現力や創造力を高める子どもの読書活動の推進	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)</p> <p>読書活動は、子どもの心を豊かにし、生きるための力を身に付けさせるとともに、学力の基盤を成すものであるため、学校・家庭・地域をはじめとする社会全体で子どもの自発的な読書活動を普及し、読書環境を整備することで子どもが自発的に読書に親しむように促します。</p>	<p>(取組項目)</p> <p>)子どもが自主的に読書に親しむ機会と環境の整備</p>
--	--

事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) 小学生	目標値	小学生1%以下							
	実績値	小学生0.6% (H26)	0.1%	0.3%	0.1%	0.2%			進捗状況	<p>小・中学生の不読者率はそれぞれ目標を達成したが、高校生の不読者率が目標を達成できなかった。また、中学生の不読者率についても平成30年度の0.1%から1.0%に上昇している。学校段階が上がるにつれて不読者率が上昇する理由としては、部活動や進路実現に向けた取組等により読書に使える時間の確保が難しくなっていることや、スマートフォン等の普及による若者の活字離れの影響が考えられる。</p> <p>高校生の不読者率を改善する目的で「高校生が選ぶ友だちにすすめる本」を選書し広く紹介するよう試みたが、リスト作成時期が遅くなり十分な活用ができなかったことが目標未達成の一因となった。今後は第四次長崎県子ども読書活動推進計画(令和元～5年度)に基づいた取組の充実を推進していく。</p>
	達成率 /		100%	100%	100%	100%			順調	
児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) 中学生	目標値	中学生1%以下	中学生1%以下	中学生1%以下	中学生1%以下	中学生1%以下	中学生1%以下	中学生1%以下	中学生 1%以下 (R2)	
	実績値	中学生2.2% (H26)	1.1%	0.5%	0.1%	1.0%			進捗状況	
	達成率 /		91%	100%	100%	100%			順調	
児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) 高校生	目標値	高校生12%以下	高校生12%以下	高校生12%以下	高校生12%以下	高校生12%以下	高校生12%以下	高校生12%以下	高校生 12%以下 (R2)	
	実績値	高校生11.6% (H26)	11.9%	11.9%	11.9%	12.3%			進捗状況	
	達成率 /		100%	100%	100%	98%			遅れ	

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業 番号	取組 項目	事務事業名 所管課(室)名	事業 期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 令和元年度事業の実施状況 (令和2年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和元年度事業の成果等	中核 事業		
				H30実績	うち 一般財源	人件費 (参考)			主な指標	H30目標	H30実績			達成率	
				R元実績	R2計画	R元目標				R元実績					
1	取組 項目	ミライon(未来につな ぐ)子ども読書活動推 進事業費	R元-5	1,518	1,518	12,726	家庭・地域 ・学校	「長崎県の子どもにすすめる本500選・精選版」 を作成し、県内に広く周知を行った。併せて、「高 校生が選ぶ友達にすすめる本」リストを作成した。 県中学生ビブリオバトル大会を開催し、県中 学生への読書への興味・関心の喚起を図った。 司書教諭等研修会、図書ボランティア研修会等 を開催し、読書活動を推進する人々の資質向上 と連携強化を図った。 市町に対し「子ども読書活動推進計画」の策定 を促し、新たに1市町が策定した。市町立小・中 学校の学校図書館を訪問し、読書環境・活動の実 態把握に努めた。	活動 指標	地域の図書ボラン ティアに対する研修 会の実施市町数(市 町)	5	5	100%	事業の成果 ・図書ボランティア研修会を県内5市町 で開催するなど、一連の取組により、 小・中学生の不読者率は目標を達成し た。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・一連の取組により、小・中学生の不読 者率がそれぞれ目標を達成するなど、 子どもが自主的に読書に親しむ機会と 環境の整備が進んだ。ただし、高校生 の不読者率は目標を達成できなかった。	
				1,813	1,813	7,178			根拠法令	学校図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法 律	成果 指標	不読者率(1ヶ月に本 を1冊も読まなかつた 者の割合)(%) 小 学生	1.0以下		
					不読者率(1ヶ月に本 を1冊も読まなかつた 者の割合)(%) 中 学生	1.0以下	1.0	100%							
							不読者率(1ヶ月に本 を1冊も読まなかつた 者の割合)(%) 高 校生	12.0以下	12.3	98%					
								12.0以下							
		生涯学習課													

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

子どもが自主的に読書に親しむ機会と環境の整備	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>小学生については、これまでの取組により成果が表れてきているが、中学、高校と学校段階が上がるごとに不読者率が高まっている。読書に関心を持つきっかけとなる取組と読書の習慣付けとなる取組を、発達段階に応じて継続することが課題である。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>第四次長崎県子ども読書活動推進計画に基づき、乳幼児から高校までのあらゆる機会を捉えて、子どもの読書活動推進の取組を継続する。併せて、家庭、地域、学校において読書活動を推進する人々の資質向上と連携強化を図る研修会を推進する。</p>

4. 令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業 番号	取組 項目	事務事業名 所管課(室)名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
			(令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組 項目	ミライon(未来につな ぐ)子ども読書活動推 進事業費	「地域で学ぶ読書活動支援事業」では、図書ボランティアグループに加え、これからボランティアを目指す学校関係者等も参加できるように申請条件を緩和した。中学生ビブリオバトル大会は、国・県・私立中学校の予選大会を新たに設け、大会の充実を図った。		第四次長崎県子ども読書活動推進計画に基づき、目標値を達成するため、「家族10分間読書運動」や「全校一斉読書活動」の推進等に取り組み、発達段階に応じた読書習慣の形成を促す取組を改善・継続していく。併せて、令和元年度から計画的に実施している図書ボランティア研修会で、家庭・地域で読書活動に関わる人々の資質向上と連携を図る。中学生ビブリオバトル大会の実施や、「高校生が選ぶ友だちにすすめる本」の更なる活用など、県内中学・高校生の読書への興味・関心を喚起する取組によって、子どもが自主的に読書に親しむ機会と環境の整備に努める。	改善
		生涯学習課				

注：「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- 視点 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- 視点 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- 視点 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- 視点 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- 視点 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- 視点 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- 視点 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- その他の視点